



はとの子だより

No.8 令和5年11月8日(水)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

よき表現者・観賞者として育つ ～公開研究協議会～

「一体に、芸術でもスポーツでも、力量が遠く離れたプロよりも、自分より一段上の仲間の方が技術や特徴を理解しやすいところがある。置かれた条件や解決すべき課題が共通するからであろう。授業でもこの点をよく踏まえ、感じ取ったものを自然と表現に向けることに成功していた。」

10月29日付け秋田魁新報に連載されている「書の愉しみ」で、本校の元校長で現学校評議員の長沼雅彦先生が、9月29日開催の公開研究協議会において提示した5年音楽の授業をこのように評してくださいました。



この授業では、パートごとに分かれて互いの歌声を聞き合いながら、ゲストティーチャーとして附属中学校からお招きした5名の先輩方の助言や実演に学びながら、合唱の質を高めていきました。長沼雅彦先生は、この授業をご覧になり、書における史実に重ねながら、表現と観賞の相互作用について深く洞察されたのでした。

実は私たち教員も、「学ぶ子どもの分かり方や分からなさに対する一番の理解者は学級の仲間だ」「分からない、できないと

いう子は、同じような状況を克服できた子に尋ねることが、問題を解決する重要な糸口となる」ということを、日々の授業を通して実感しています。

互いの歌声に耳を澄ませ、先輩の歌声に心を寄せる中で、少し背伸びすれば届きそうな憧れに目標を定める。5年生の子どもたちが、表現と観賞を行きつ戻りつしながら、響きの質を高めたからでしょう。音楽室から出てきた数名の参観者の目に光るものを見ることができました。

決して誰かを感動させようとして歌ったわけではなかったはずですが、もっとよい響きを、と夢中になって歌い、考え、話し合った結果が、すべからくその場に居合わせた人々の心を打った。学校で学ぶということの原点をかいま見た瞬間でした。

この日提示した13授業では、互いの話に耳を傾け、互いの作品に目を凝らしながら学ぶ子どもたちの姿が、至るところで見られました。

よき聞き手がよき話し手を育てる、よき鑑賞者がよき表現者を育てる、ということ、改めて噛みしめた一日となりました。

運営にご協力くださり、子どもたちの頑張りを静かに見守ってくださった保護者の皆様にも、改めて感謝申し上げます。



自分たちのことは自分たちで決める ～学校のルール改正に挑んだ6年生～



10月に入って間もなく、朝のグラウンドに子どもたちの声がこだまするようになりました。それまでは聞こえるはずのなかった声です。

6月頃、6年生の子どもたち数名が、本校で共通理解されている「はとの子の約束」に疑義を唱えました。「朝、登校してから朝の会までの時間にグラウンドを使用することはできないという〈はとの子の約束〉があるんだけど、それを見直すことはできないだろうか」日課表の改訂で長休みと昼休みは5分ずつ短くなりました。秋田市全域から登校してくる本校の子どもたちに

とって、放課後に同じ学校の友達と遊ぶことは稀です。仲の良い友達が遠方に住んでいる場合はなおさらのことでしょう。学校で一緒に過ごす時間は、5分だろうが10分だろうがとても貴重なのです。「朝が一番時間がたっぷりある。教室でも一緒にいることはできるけれど、好きな外遊びをする時間が朝にあればもっといいんだけどな」そう思っても無理はありません。

学級で提案したところ、賛否両論、様々な意見が飛び交ったそうです。一番の懸念材料は「時間を守ることができるか」だったことは想像に難くありません。他にも「ケガや喧嘩などのトラブルが増加しないか」などの心配も話題になったそうです。

そこでまずはお試し期間を設けたのが7月ごろのことでした。長休みや昼休みに時間を守って教室に帰ってくる人は何人で、守れない人は何人か、その増減の傾向や約束の徹底ぶりを調査しようということになりました。ほどなくしてその結果がオープンスペースに掲示されるようになります。そして、学級の代表が出した結論は「みんなで気を付けた結果、時間を守れない人は徐々に減っていった。自分たちで話し合えば、時間を守れない人がいても段々と改善されていくはず。だから朝のグラウンドでの外遊びを認めてもらいたい」でした。

Class	26日(水)	27日(木)	28日(金)
6A	0人	0人	0人
6B	5人	4人	3人
6C	27(○)人	28(○)人	16(○)人

朝のグラウンド使用を認めてもらおう?
時間厳守キャンペーン
9/26~9/28



学年での意見調整、代表委員会での提案と審議、プレゼン資料の作成、副校長への陳情と、夏休みを挟んで3か月に及ぶ準備・提案・交渉の期間は、決して平坦な道のりではなかったようです。それでも、その間、熱意は冷めることなく静かにことは進んでいきました。

長い附属小学校の歴史で、記録に残っている限り、子どもたちによって学校のルールが改正されたのは初めてのことです。たまたま、若い先生たちの声も響き渡っていることにも、学校の新しい歴史の胎動を感じているところです。自分たちのこと

とは自分たちで決める、という民主主義の精神が、はとの子たちの心に火を灯しはじめたことに深い敬意を払いつつ、晴れた日の朝のグラウンドを目を細めて見ている次第です。

新任の先生方の紹介

5・6年生の理科を担当して下さった理科専科の佐藤咲紀先生が、長期のお休みに入られたことに伴い、5年生の理科を武石早穂先生、6年生の理科を山田有輝也先生が、それぞれに担当して下さることになりました。



お二人とも、秋田大学教職大学院の2年次の院生で、既に来春からは公立学校での採用が決まっている先生の卵です。着任してまだ1か月を経過していませんが、既に子どもたちの間に溶け込んで、楽しくためになる理科の授業を引き継いでくださっています。

約半年間という短い期間ではありますが、新しい附属小学校の仲間を迎え入れてよい思い出をつくってほしいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

地域の方々に学ぶクラブ活動

子どもたちが毎回楽しみにしていたクラブ活動が、先日最終回を迎えました。

特にスポーツクラブと茶道・生け花クラブでは、地域のご専門の先生をお招きしていました。それぞれの先生方から、とても興味深いお話を伺いました。



陸上競技をご専門とされている先生からは、コロナ禍の影響として、子どもたちの運動習慣の維持が困難な状況に陥っていることはもちろんですが、それに伴い免疫力が低下していることが、今後訪れるであろうインフルエンザ等のウイルスへの抵抗力低下につながるのではないかと懸念されているとのことでした。

市内で民間のスポーツ団体でのご指導もされている先生でしたので、ぜひ地域スポーツに参加して、運動を通してウイルスに負けない免疫力をつけ、健康維持に努めてはどうかというご提案をいただきました。

また、茶道・生け花クラブのお二人の先生からは、特に茶道のお点前の指導において、参加した本校の子どもたちの吸収力が格段に素晴らしかったとお褒めの言葉をいただきました。たった3回の活動でお茶会ができたのは、本校の子どもたち以外にあまり前例がないのだそうです。

そう言えば、20年ほど昔、本校OBである作曲家の天野正道先生が、130周年記念行事で全校音楽の授業をして下さったときも、予定していたメニューをはるかに超えて、どんどん高度な合奏まで辿り着いたことに驚かれていたことを思い出しました。



ものすごい速さで新しいことを吸収していくはとの子たちの底力を感じました。それを鋭く見抜いて下さった先生方、ありがとうございました。